

# 令和元年度三重県立飯野高等学校全日制学校マネジメントシート

## 1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒それぞれが信頼される社会人としての基本を身につけている学校</li> <li>・個々の生徒の実践力と学力を両立させる学校</li> <li>・生徒の可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育成する学校</li> </ul>
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな人間性と確かな学力、礼儀やマナー、規律ある行動など、信頼される社会人としての基本を身につけている生徒</li> <li>・専門的で特色のある学習活動を通して、高い創造力や国際感覚を身につけそれらを地域やグローバル社会に貢献できる生徒</li> <li>・異文化を理解し、自他共に認め合いながら互いの命や人権を尊重できる生徒</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い専門的知識・能力と指導力を有し、情熱を持って教育活動に取り組み、生徒の意欲や向上心を喚起できる教職員</li> <li>・学習指導や生徒指導等の教育活動において、粘り強く生徒に接し、理解に努め、一人ひとりの生徒にきめ細かく対応できる教職員</li> <li>・新たな取り組みに積極的にチャレンジする向上心を持ち、他の教職員と協力して学校経営や教育内容の向上を目指すことができる教職員</li> </ul>

## 2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>〈生徒〉 全学年対象アンケートより、わかりやすい授業と充実した進路指導を期待している</p> <p>〈保護者〉 全保護者対象アンケートから教科指導や進路指導の充実を期待している</p> <p>〈地域〉 生徒と共に学ぶ日本語基礎講座の受講希望及びデザインや英語力を活かした活動など高校生の社会貢献を期待している</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>〈保護者〉 学力向上と礼儀やマナーを身につける</p> <p>〈中学校〉 多様な生徒の受け入れ</p> <p>〈地域〉 学力、コミュニケーション力を向上させる</p>	<p>〈保護者〉 ・学校教育への理解と積極的な協力をを行う</p> <p>〈中学校〉 ・学校生活に適應できる生徒を育てる</p> <p>〈地域〉 ・卒業生の積極的受け入れを行う</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○学校生活への満足度は高いものの、目的意識を持って学校生活に取り組んでいる生徒の割合が低いことから、「なぜ勉強すべきか」について一歩踏み込んだ指導が必要である。社会とのつながりや社会貢献を意識させる体験を通して成功体験を積み、自尊感情を育てる活動を取り入れる。</p> <p>○総勤務時間の縮減について、子どもたちと接する時間をコアにし、仕事の整理をするなど教職員の意識改革が必要である。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>【現状】 両科とも特色のある専門性の高い取組を通して、成果、実績を積み重ねてきており、地域からの期待、信頼は厚いものがある。</p> <p>【課題】 高い学力を擁する生徒から、日本語の習得に課題がある生徒まで学力幅が広く、学力層や個々の状況に応じた学習指導を組織的に取り組む必要がある。また支援が必要な生徒や生活習慣及びマナー指導、CLD生徒に対する日本文化に対する理解の促進など、指導体制の充実が必要となっている。</p>	

学校 運営等	<p>【現状】進路指導やキャリア教育の推進を図るよう組織を強化し、基礎学力向上等に関して学校全体で組織的に指導にあたる態勢が確立しつつある。</p> <p>【課題】基本的な生活習慣の確立と集団生活の中で自己管理ができるようになるための生徒指導体制の確立が必要となっている。また、特別な支援が必要な生徒や、日本語の習得に課題がある生徒などに対する支援体制をさらに拡充させることが必要となっている。</p>
-----------	---

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を見据えた系統的進路指導プログラムに沿ったキャリア教育の推進と構築を行う。</li> <li>・総合的な学習時間等を通して、探究活動を推進し探究心や基礎学力、考える力を育成する。</li> <li>・基本的な生活習慣やマナー指導を徹底し、生徒指導の充実を図る。</li> <li>・CLD生徒支援教育の充実を図り、日本語指導教育を一層推進する。</li> <li>・人権感覚を醸成し、異文化理解や生命の尊厳にかかる教育の充実を図る。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の向上を目指し、授業の改善と教職員の指導力向上を図る。</li> <li>・応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流を積極的に行い、両科の質の向上を図る。</li> <li>・学校の特徴を活かした組織作りと改善活動を積極的に行う。</li> <li>・地域の人々と協力連携して貢献活動を行い、学校の情報を地域へ積極的に発信する。</li> <li>・教職員及び生徒や保護者にとって安心安全な教育環境を整備する。</li> <li>・教職員が充実した業務を行うため、総勤務時間を縮減し、執務環境を整備する。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
系統的な進路指導プログラムに沿ったキャリア教育の推進を行う。 総合的な学習時間等を通して、探究活動を推進し探究心や基礎学力、考える力を育成する。	(1)進路意識の向上 ○活動指標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己探求のためのキャリア教育講話等の実施</li> <li>・鈴鹿ロータリークラブの学年集会への参加</li> <li>・キャリア教育3年間の指針及び内容の構築</li> <li>・ガイダンス、講話等実施回数 1年6回、2年7回、3年11回以上</li> </ul> ○成果指標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路希望調査における希望未定者減少率50%以上</li> </ul>	(1)進路意識の向上 ・ガイダンス等実施回数 1年6回、2年7回、3年12回 ・進路希望未定者数 1年35.6%減(4月45名→1月29名)、2年100%減(4月18名→9月0名) (2)進路希望の実現 ・計画的な模試の実施 1年:到達度テスト(全員2回)、2年:基礎力診断テスト(全員1回)、記述模試(希望者1回)、マーク模試(四大・公立短大志望者全員1回)、3年:マーク模試(四大・公立短大志望者全員3回)、マーク模試(希望者3回) ・模試受験者 3年応デ科32名・英コミ科20名、2年応デ科12名・英コミ科2名 ・センター試験受験者数10名 ・センター受験者平均英語筆記79.4点、英語リスニング21.5点、国語92.7点 ・国公立大学合格者3名 ・「我究」プログラム実施18回 ・求人数58人 ・1次試験による合格率92.6%(25/27名合格)	※
	(2)進路希望の実現 進学希望者 ○活動指標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望に応じた課外等の組織的な取組</li> <li>・3年間を見据えた計画的な模試の実施</li> </ul> ○成果指標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・模試受験者応デ科30名以上、英コミ科20名以上</li> <li>・センター試験受験者数27名以上</li> <li>・大学入試センター試験受験者の平均得点 英語筆記100/200点以上 英語リスニング25/50点以上 国語100/200点以上</li> <li>・国公立大学合格者15名以上</li> </ul>		◎
	就職希望者 ○活動指標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「我究」のプログラム実施年間15回実施</li> <li>・社会人としての能力、基礎学力等の向上をはかる取組、課外等の実施</li> <li>・企業訪問等による求人開拓の推進</li> </ul> ○成果指標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・求人数55人以上</li> <li>・1次試験による合格率90%以上</li> </ul>		

	(3)教職員全員による礼儀、マナー指導の実施 ○活動指標 ○成果指標 ・就職希望者に応じた丁寧で効果的な面接指導実施 ・生徒が希望した面接の延べ回数 前年度実績値比 10%増(延べ 253 回以上)	(3) 礼儀等指導実施 ・面接の延べ回数 132% (305 回)	
CLD生徒支援教育の充実を図る	(1)生徒の実態の把握 ○活動指標 ○成果指標 ・担任、教科担当者等との情報交換会実施 ・人権教育を含む地域との連携 年間 3 回以上実施  (2)日本語能力の向上 ○活動指標 ○成果指標 ・日本語能力試験の受験促進 ・第 1 言語が日本語ではない生徒の N3 以上の合格率 60%以上  (3)奨学金などの紹介、申込など経済的に困難な生徒・家庭への支援 ○活動指標 ・説明会と申請手続き指導の充実 生徒に 2 回以上、保護者には随時実施	(1) 生徒の実態の把握 ・地域との連携 3 回  (2) 日本語能力向上 ・N3 以上の合格率 65%  (3) 生徒・家庭支援 ・説明会など指導の充実 1 回	
生徒指導の充実を図る	(1)指導の機会の充実 ○活動指標 ○成果指標 ・全生徒対象のアンケートと面談を年間各 3 回実施 ・面談内容等の共通理解、情報共有  (2)服装、頭髪、礼儀、マナー、生活習慣に関する指導の充実 ○活動指標 ○成果指標 ・全校集会を年間 5 回以上実施 ・教員全体で一貫した取組の実施 ・個別面談や個別指導の推進 ・遅刻件数 88 件以内	(1) 指導機会の充実 ・アンケートと面談 3 回(6 月、9~10 月、1 月) (2) 服装等指導充実 ・全校集会 5 回(4 月、7 月、9 月、12 月、1 月) ・遅刻件数 150 件	
人権感覚を醸成し、異文化理解や生命の尊厳にかかる教育の充実を図る。	(1)人権教育に係る取組 ○活動指標 ・教員研修及びフィールドワークを年間 1 回実施  (2)異文化理解及びグローバル人材の育成に係る取組 ○活動指標 ・講話等の実施及び地域活動、情報発信  (3)生命の尊厳に係る教育 ○活動指標 ○成果指標 ・人権講演会と人権 LHR を、各学年それぞれ年間 1 回実施 ・人権感覚の高まりを感じる生徒の割合 80%以上	(1) 人権教育に係る取組 ・教員研修等実施 教職員研修:1 回、フィールドワーク:1 回 (2) 人材育成に係る取組 ・地域活動等 鈴鹿市主催の進路ガイダンスに参加 (3) 生命の尊厳 ・講演会と LHR の実施 講演会:1 回、LHR:各学年 1 回 ・人権感覚の高まり 59%(9 月調査)	
<b>改善課題</b>			
<p>○センターレベルを意識した学習の積み上げ、一般入試に対応できる学力の定着ができていない。また、美術系大学受験に必要な実技と学科の両立が困難となっている。</p> <p>○奨学金などの紹介にあたっては、効果的な助言となるよう、保護者対象の説明やアドバイスは随時行うこととし、電話や面談、メールなど、あらゆる方法での問い合わせに応じていく必要がある。</p> <p>○生徒の遅刻件数減少について、効果的な対策をとる必要がある。</p>			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
学力の向上を目指し、授業改善を行い、教職員の指導力向上を図る	<p>(1) 授業の改善 ○活動指標 ・年2回、5日間以上の授業公開の設定</p> <p>(2) 教職員の教科指導力向上 ○活動指標 ・研究授業・協議の実施 全教科年間1回以上 ・校外研修への参加促進 ・学力等に応じた授業の実施 ・アクティブラーニング等の研究の推進 ○成果指標 ・研究授業等参加回数 全教員年間1回以上 ・校内で実施する公開授業見学シートの作成と供覧 100%</p> <p>(3) 補習や宿題期間による学習習慣づくりの実施 ○活動指標 ・考査前補習と各学期の宿題期間における指導充実 ・学力層に応じた補習、課外等の実施 ○成果指標 ・学習習慣が身についたと感じている生徒の割合 65%以上</p> <p>(4) 英コミ科における英検やTOEICの受験者数増加 ○成果指標 ・英検2級以上合格者 20名以上</p> <p>(5) 応デ科における各種コンペへの参加数増加 ○成果指標 ・コンペ参加者数 130名以上</p>	<p>(1) 授業の改善 ・授業公開 5月1日間、6月2日間、11月3日間 (2) 教科指導力向上 ・研究授業・協議 9/9教科 ・研究授業等参加 34/40人 ・公開授業見学シート 94.1%(32/34人)</p> <p>(3) 学習習慣づくり ・学習習慣が身についた 59.5%</p> <p>(4) 英検等受験者増加 ・英検2級以上合格者 準1級:4名、2級:11名 (5) 各種コンペ参加数 130人</p>	※
応デ科と英コミ科の交流を積極的に行い、両科の質の向上を図る	<p>(1) 応用デザイン科と英語コミュニケーション科の交流 ○活動指標 ・学年集会、行事、発表会、展覧会での実践 年間7回以上実施</p>	<p>(1) 応デ科・英コミ科交流 7回</p>	
学校の特徴を活かした組織作りと改善活動を積極的に行う	<p>(1) 学校マネジメント委員会による改善活動の確立 ○活動指標 ・年間2回以上実施</p> <p>(2) 国際サポート体制の構築 ○活動指標 ・担任、教科担任、SSW、SCとの連携 年間3回以上実施</p> <p>(3) 生徒指導委員会・特別支援教育推進委員会の定例化 ○活動指標 ・それぞれ年間3回以上の実施</p> <p>(4) 相談しやすい教育相談体制の構築 ○成果指数 ・面談人数 20名以上、面談件数 90件以上</p>	<p>(1) マネジメント委員会 1回 (2) 国際サポート委員会 3回 (3) 生徒指導委員会等 特支委:3回、生指委:3回 (4) 教育相談体制構築 面談人数:29人、面談件数:131件</p>	※
地域の人々と協力連携して貢献活動を行い、学校の情報を地域へ積極的に発信する	<p>(1) 鈴鹿ロータリークラブとの交流、連携 ○活動指標 ・地域清掃など貢献活動の実施 ○成果指標 ・生徒が参加する取組み 年間2回以上</p> <p>(2) 積極的な情報発信 ○活動指標 ・本校教育活動の県内中学校への情報提供の充実 ・学校案内等の刷新によるPR活動 ・中学校訪問年3回(鈴鹿5回、他地区2回)以上 ・飯野高校HP更新 ○成果指標 ・オープンスクール参加者の入学率前年度比3%増</p> <p>(3) 地域主催の展覧会や県等からのデザイン依頼への積極的参加 ○成果指標 ・地域主催の展覧会参加 40名以上</p>	<p>(1) 鈴鹿RCとの連携 ・貢献活動 4/6 鈴鹿さくら祭り(生徒5、教員2)、6/20 学校環境デー(学校周辺のゴミ拾い:生徒107、教員16)、10/27 ふくふくまつり(生徒4、教員1) (2) 積極的な情報発信 ・中学校への情報提供 2回(学校案内等配布) ・中学校訪問 鈴鹿・津・四日市の全中学校およびその他市町の中学校のうち、現在1学年に在籍生徒がいるすべての中学校を訪問(全63校) (3) デザイン依頼に参加 ・参加者 50名</p>	◎
教職員及び生徒や保護者にとって安心安全な教育環境を整備する	<p>(1) 生徒、保護者の学校に対するニーズや信頼度等を把握するためのアンケートの実施 ○活動指標 ・年間1回実施 ○成果指標 ・保護者の学校に対する信頼度 88%以上</p> <p>(2) 生徒保護者への携帯メール(まちコミメール)による情報提供 ○活動指標 ・年間30回以上配信</p> <p>(3) 学校の情報の適切な管理 ○活動指標 ・個人情報管理状況調査の実施 年間2回以上 ○成果指標 ・個人情報漏洩件数 0件</p> <p>(4) 安全点検の実施 ○活動指標 ・不審者情報の周知の徹底 ・盗難防止のための各種取組の実施 ○成果指標 ・盗難被害件数 年間5件以内 ・いじめの件数 0件</p>	<p>(1) ニーズ把握 ・アンケート実施 1回(12月) ・保護者の信頼度 91.9% (2) 情報提供 ・携帯メール 40回 (3) 情報管理 ・個人情報管理状況調査 2回 ・情報漏洩 0件 (4) 安全点検 ・盗難被害件数 4件 ・いじめの件数 5件</p>	※

<p>教職員が充実した業務を行うため、総勤務時間を縮減し、執務環境を整備する</p>	<p>(1) 労働安全衛生の適正化 ○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過重労働者への面談を随時実施</li> <li>・安全衛生委員会 年2回実施</li> </ul> <p>(2) 総勤務時間の縮減 ○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノー残業デー年20日間実施</li> <li>・夏季休業中における学校閉校日の設定2日</li> <li>・総勤務時間縮減の推進(目標値)</li> <li>月45h 超延べ人数 前年度比30%減(82→57人)</li> <li>月80h 超延べ人数 前年度比30%減(21→14人)</li> <li>時間外勤務時間 前年度比30%減(27.5→19.3h)</li> <li>・会議時間の縮減に向けた取組</li> <li>・業務の効率化・平準化に係る取組の推進</li> </ul> <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年休等取得の推進 昨年度比+1日取得(15.8→16.8日)</li> <li>・学校部活動運営方針に係る部活動顧問負担軽減</li> <li>部活動休養日 週1日</li> <li>・職員会議の時間短縮</li> <li>60分以内で終了する会議の割合90%</li> </ul> <p>(3) 執務環境の整備と安心、安全な職場環境づくり ○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で快適な職場づくり</li> <li>・パワーハラスメントをはじめ様々なハラスメントに対する指針の策定及び未然防止対策</li> </ul>	<p>(1) 労働安全衛生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過重労働者面談</li> <li>産業医の指導あるいは月間過重労働が80時間を超過する職員について、校長が面談を実施</li> <li>・安全衛生委員会 2回</li> </ul> <p>(2) 総勤務時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノー残業デー 24日</li> <li>・学校閉校日 2日</li> <li>・総勤務時間 月45時間超6.1%減(82→77人)、月80時間超±0(21→21人)、時間外勤務時間6.2%減(27.5→25.8時間)</li> <li>・年休取得日数 2.2日増(15.8→18.0日)</li> <li>・職員会議時間短縮 88.9%(16/18回)</li> </ul> <p>(3) 職場環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指針策定、未然防止対策</li> <li>校長が「信頼される学校であるための行動計画」を策定し、その中に校長を中心とした管理職の取組として「様々なハラスメント防止」を明記し、職員会議の場で周知</li> </ul>	<p>◎</p> <p>◎</p>
--	--	---	-------------------

#### 改善課題

- 「学習習慣が身についた」と感じている生徒の割合が、応用デザイン科で極端に低下した。早急に現状把握に努め、対応策を講じる必要がある。
- 外国人生徒の資格試験に対する認識が薄く、英検等の受験が少ない。

#### 5 学校関係者評価

- ファッションショーなどについて、高校生でここまでできることは凄いことだと感じた。
- 授業中、教室の中に自由な風が流れている。生徒が好きでやっていることがよく分かる。
- 卒業制作展は津だけで行うことはもったいない。
- 文化祭を観覧して、生徒は楽しく、教員も参加して信頼関係があることがよく分かった。
- 飯野高校のような外国籍生徒が多い学校において大学入試センター試験の得点を上げるためには、英語力だけではなく日本語力も必要である。
- 奨学金に関する通知について、書かれている言葉が難しい。外国籍生徒の保護者に分かりやすい文章が必要である。
- 入学金などの振込方法が分からない場合があるのでフォローが必要。
- 定時制が実施している「朝食の摂取状況」調査を全日制も行ってほしい。

#### 6 次年度に向けた改善策

- 生徒の学習習慣の定着を図るため、教員の研鑽の機会を設け指導力の向上に努める。
- CLD 生徒支援の充実を図り、奨学金の紹介等の際に効果的な指導助言となるよう、保護者対象の説明やアドバイスを密に行うとともに、電話や面談、メールなど、あらゆる方法での問い合わせに応じる。
- 保護者の情報交換・協力体制構築を図り、生徒の朝食の摂取状況を把握し必要な指導を行うなど、生徒一人ひとりの基本的な生活習慣の育成を図る。